

特養研究所からのお知らせ ～令和2年度の第三者評価事業報告と今年度のお知らせ～

令和3年度のご挨拶

代表理事の石田誠と申します。

新型コロナウイルス感染対策の中、社会的なインフラとして事業継続に献身されている皆様に敬意を表し、社会の中の一人として深く感謝申し上げます。

令和2年度は、評価事業の中で、事業所の経営者の皆様から大きく感化された年となりました。「コロナ禍だから」ではなく、「コロナ禍だからこそ」、という言葉が特に印象的でした。「危機を前に職員間が一丸化した」、「結束が高まった」、「知識や技術の向上が進んだ」等の取り組みを聞くにつれて、私達自身が皆様から勇気をもらう事もありました。

また、利用者や家族へのアンケート調査では、家族や保護者から事業所側へのコメントに「この危機と一緒に乗り越えましょう!!」といった、事業所の皆さんへの励ましの言葉等を多く拝見する事もあり、深い感銘を受けました。

現在も見通しは不透明ではあり、予断を許さない状況ではありますが、ワクチン接種等の明るいニュースも聞こえはじめており、当研究所でも「with コロナ」から「アフターコロナの新しい日常の構築」にも視点を合わせ、ここからの2～3年の中長期的な見通しの練り直しをしている所です。

感染症との共存はコロナウィルスだけでは無いという事を踏まえて、あえて、「脱・with コロナ」の思考を持っていたいと思います。

一般社団法人特養ホームマネジメント研究所
代表理事 石田 誠

私達の評価活動の3原則

(お約束すること)

1. 定められた**評価の枠組みに基づき**ます。
2. 事業所の**皆様に応援する**姿勢を持ちます。
3. 皆様の事業所の発展・強化・改善の**役に立つ報告書**を作成します。

高齢部門の主担当者は、代表の石田です

当研究所では、事業種別に合わせて専門的な知識、経験、実績を備えた評価者チームを編成することや、一貫して主担当の評価者が迅速・丁寧な事業所の皆様とコミュニケーションを取ることができる体制を目指しています。
高齢部門の主担当は、
全て代表の石田が
担当させていただきます。



児童福祉マネジメント研究室の編成と実働

評価経験豊富かつ園長経験者や保育所コンサル経験者等を班長として、児童部門専門チームが稼働しております。今後もさらなる事業種別毎のチーム制の強化・発展を図っていきます。

新型コロナウイルス感染症に関連した2021年度の第三者評価活動について

【制度面の現状】

- ・ 2020年度中は特例措置として、事業所の皆様との協議により、「訪問によらない方法」を選択することも可能でした（テレビ電話、電子メール、書類の郵送等による実施）。東京都福祉サービス評価推進機構からの2021年度の方針はまだ出されておりましたが、おそらく継続されるのではないかと認識しております。

【新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた、2021年度の当社の評価活動方針】

- ・ お問合せやお見積依頼は例年通り受け付けています。
- ・ オンラインでのご相談、お打合せ、ご説明等も可能です。
- ・ 東京都福祉サービス評価推進機構の最新の通知に基づいて、手法を遵守し、実施します。
- ・ 実施方法については、事業所の皆様の状況やご要望を伺い、十分に協議しながら進めていきます。

令和2年度報告 評価実績 20 法人・55事業所様

高齢・児童ともに、令和2年度も前年度の評価実績を上回る事ができました。また、新たな事業種別の評価も担わせていただく事ができました。今後も引き続き、皆様のお役に立てるように精進していきたいと思っております。

在籍評価者数 30名

事業所経営者、現役の特養施設長、現役看護師・介護士等、現在も介護現場に携わっている評価者が多数在籍しています。

高齢系実績 34件

特養	21
ケアハウス	1
グループホーム	3
通所介護	3
認知症対応通所介護	1
小規模多機能	1
看護小規模多機能	1
居宅介護	1
ショートステイ	2

児童部門実績 21件

認可保育所	14
企業主導型保育	5
放課後等デイ	1
障害児多機能事業	1

令和3年度の計画 力を入れたい点と改善点

力を入れたい点 「フルリモート方式での第三者評価の実施」

- ・ 前年度評価では感染拡大に伴い、事業所の皆様と相談し、施設への訪問を控えることもありました。今年度もリモートでの実施も可能な体制の強化に取り組みます。
- ・ リモート方式は、主に良い性能の機器の準備によって質が左右されると認識しています。タブレット端末、ノートPC、スピーカー、マイク等、個々の評価者毎に準備する等により、継続的に強化を図っております。
- ・ ICTシステムとして、マイクロソフトの「チームズ」を中心に運用しております。オフィス365やクラウドフォルダの「OneDrive」との相性の良さを踏まえ、今後も活用していきます。
- ・ 機器の他に、短時間での集中的なヒアリングをする対話技術についても、評価者それぞれの経験則を共有しつつ、研究を進めております。

力を入れたい点 「評価者の能力を強化」

- ・ 事業所の皆様との信頼関係を深めるために、評価者の接遇・ヒアリング方法の改善をします。
- ・ 当法人のこだわりである、「わかりやすく、役に立つ報告書」の具体例を評価者に伝達するために、マニュアルの改訂・浸透に継続的に取り組みます。

改善計画 「評価者を増員・事務局を強化」

- ・ 特養施設長、在宅事業所管理者、介護職、保育所園長等、人柄や経験を重視して、継続的に評価者を増員しております。
- ・ 事務局マニュアルの作成等により、間接業務の効率化、標準化を強化します。

力を入れたい点 「組織文化」と「感情労働」に焦点を

- ・ 昨年度から、皆様の事業所の「組織文化」とは何かに関心をあてて、組織マネジメント部分のヒアリングをしております。引き続き、経営層の皆様の言動・行動、成文化された制度等、組織文化の源泉を捉えることに力を入れていきます。
- ・ ある事業所の管理者の方から、「認知症ケアでは、立ち止まらず考え続ける事を大切にしたい」との言葉をお聞きしました。介護事業は、安全性・合理性・効率性といった目に見えやすい部分の追求だけにしてしまてはいけなと、改めて気付かされました。利用者の抱えている感情にいかにか寄り添うか、といった部分に介護という仕事の本質があるのではないかという点を、評価者一同で共有できるようにします。

令和3年度の第三者評価受審につきましても、ご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。お気軽にご相談ください。

一般社団法人 特養ホームマネジメント研究所 (評価機関認番号 15-231)

事務所所在地 〒165-0034 東京都中野区大和町 1-62-6

TEL03-5929-9807 FAX03-5929-9808 代表 Email makoto-ishdia@yf6.so-net.ne.jp